

1. ディプロマ・ポリシー

ディプロマ・ポリシー	
DP1	経済、経営、企業、起業、マネジメント、情報などに関する体系的知識と研究方法を習得し、活用することができる。
DP2	国際的かつ学際的な視野をもって課題を抽出し、実社会との関わりを踏まえて、深く掘り下げ研究することができる。
DP3	グローバルとローカルの複眼的視点から、戦略と情報を高度に体系化した経営展開力を修得し、高度専門職業人として広く活動することができる。

2. アセスメント・ポリシー

#	アセスメント項目	アセスメント・プラン	対応するDP										責任主体	備考	
			DP1	DP2	DP3										
共通基礎アセスメント項目															
1	入学試験	入学定員充足率及び収容定員充足率によりアセスメントを行う。			○									研究科長及び自己点検評価委員	学部事務室（研究科担当）及び教務委員が支援する
2	GPA	GPA分布によりアセスメントを行う。	◎	○										研究科長及び自己点検評価委員	学部事務室（研究科担当）及び教務委員が支援する
3	成績評価	成績分布及び単位修得率によりアセスメントを行う。	◎	○	○									研究科長及び自己点検評価委員	学部事務室（研究科担当）及び教務委員が支援する
4	履修状況	履修登録率によりアセスメントを行う。	○											研究科長及び自己点検評価委員	学部事務室（研究科担当）及び教務委員が支援する
5	在学生調査	在学生意識調査の調査回答率及び各設問の肯定回答率によりアセスメントを行う。		○	◎									研究科長及び自己点検評価委員	学部事務室（研究科担当）及び教務委員が支援する
6	海外プログラム/インターシップ/プロジェクト/ボランティア/学会/課外活動等	各海外プログラム/インターシップ/プロジェクト/ボランティア/学会/課外活動等の参加者及び成果によりアセスメントを行う。			○									研究科長及び自己点検評価委員	学部事務室（研究科担当）及び教務委員が支援する
7	地域活動	各地域活動等の参加者及び成果によりアセスメントを行う。			○									研究科長及び自己点検評価委員	学部事務室（研究科担当）及び教務委員が支援する
8	退学率/休学率	退学率及び休学率によりアセスメントを行う。			○									研究科長及び自己点検評価委員	学部事務室（研究科担当）及び教務委員が支援する
9	検定/資格（外部語学検定試験含む）等	各種検定・資格の受験条件充足率、受験率、合格率等によりアセスメントを行う。	○											研究科長及び自己点検評価委員	学部事務室（研究科担当）及び教務委員が支援する
10	学位授与	学位授与数によりアセスメントを行う。	○	◎	○									研究科長及び自己点検評価委員	学部事務室（研究科担当）及び教務委員が支援する
11	修了後の進路	就職率及び進学率によりアセスメントを行う。			○									研究科長及び自己点検評価委員	学部事務室（研究科担当）及び教務委員が支援する
12	修了時調査	修了時調査の調査回答率及び各設問の肯定回答率によりアセスメントを行う。			○									研究科長及び自己点検評価委員	学部事務室（研究科担当）及び教務委員が支援する
論文作成過程アセスメント項目															
13	研究計画書	研究計画書の提出率によりアセスメントを行う。	◎	○										研究科長及び自己点検評価委員	当該院生の主査・副査、学部事務室（研究科担当）及び教務委員が支援する
14	修士論文研究計画発表	指導教員および副指導教員が研究テーマ、研究テーマの独創性、問題設定の妥当性について質的に評価し、次の研究中間発表へ進むことを審査する。次の研究中間発表に進むことが許可された率（許可率）によりアセスメントを行う。	◎	○										研究科長及び自己点検評価委員	当該院生の主査・副査、学部事務室（研究科担当）及び教務委員が支援する
15	研究中間発表	指導教員および副指導教員が研究方法の選択、研究方法実行の適格性について質的に評価し、次の論文作成計画発表へ進むことを審査する。次の論文作成計画発表に進むことが許可された率（許可率）によりアセスメントを行う。	◎	○										研究科長及び自己点検評価委員	当該院生の主査・副査、学部事務室（研究科担当）及び教務委員が支援する
16	論文作成計画発表	指導教員および副指導教員が研究の内容、章立て、論述の流れ、調査計画の適切性について質的に評価し、次の修士論文概要発表へ進むことを審査する。次の修士論文概要発表に進むことが許可された率（許可率）によりアセスメントを行う。	○	◎										研究科長及び自己点検評価委員	当該院生の主査・副査、学部事務室（研究科担当）及び教務委員が支援する
17	修士論文概要発表	指導教員および副指導教員が参考文献、調査資料の妥当性・信頼性、および論文作成能力の到達度について質的に評価し、次の修士論文提出へ進むことを審査する。修士論文提出が許可された率（許可率）によりアセスメントを行う。	○	◎										研究科長及び自己点検評価委員	当該院生の主査・副査、学部事務室（研究科担当）及び教務委員が支援する
18	修士論文審査	指導教員および副指導教員が修士論文および口述試験をそれぞれ審査し、双方の合格をもって修了可とする。修士論文が合格となった率（合格率）によりアセスメントを行う。	○	○	◎									研究科長及び自己点検評価委員	当該院生の主査・副査、学部事務室（研究科担当）及び教務委員が支援する